

「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。～彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。」ヘブル人への手紙11：13～16

長崎チームが派遣されています。それは2,3世のクリスチャンが、1世の信仰に頼ることなく、訓練され成長することを目指して、今第2陣が出ています。26聖人のたどった道を歩みながら祈りみ言葉を読み、礼拝しながらの旅です。26聖人がなぜ、苦しみに耐え、信仰を守り通せたかというのは「永遠への思い」「永遠の報い」を知っていたからでしょう。「～神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。～」上の聖書箇所へブル人への手紙はアブラハムのことを言っていますが、約束されたものを手にすることはできず、この地上では旅人であり、寄留者であるけれども、行くべきところをはっきり見据え、素晴らしい天の故郷であることを信仰の目で見、あこがれていました。

12才のルドビゴ茨木が「もし私に仕えるならお前を助けてつかわそう。あと50年も生きられる。おいしいものも食べられる。きれいな服も着られる。その上、刀を差して武士になり大名にもなれるぞ。」と役人寺沢半三郎に言われた時、「お奉行様もどうぞキリシタンにおなりなさいませ。そしてご一緒にパラインである天国へまいりましょう。終わりのなき永遠の命をたちまち滅びるつかの間の肉体とは変えられないからです。」と答えました。また13才のアントニオも「アントニオ、キリシタンを捨てて助かってくれ。そうすれば私のありったけの財産をお前に譲ってやる。」と縋りつくお父さんに向かって「お父さん。財産はこの世だけのものです。主イエス様が私たちのために準備してくださっているのは永遠の宝です。～喜んでください。私はこれから天国へ行くのです。先に天国へ行ってお父さんお母さんのおいでになるのを待っています。」と言っています。「殉教」の本のp、159には 3才の子供が一人で裁判に呼び出された時のことが書かれてあります。役人がおいしそうなお菓子を見せびらかせて、「キリシタンをやめたらこのおかしをあげるよ。」と誘惑した時に、子供は頭を横に強く降りました。「お母がね。キリシタンば捨てないとパラインへ行ける、言うたもん。パラインへ行けばもっともっと甘か物あると、、、と答えています。小さいながら彼らははっきりと「永遠」を知り、永遠に価値あるものを知っていたのでしょう。

私たちは神に愛されています。それはヨハネ3：16に凝縮して書かれてあります。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」神様に愛されているその愛は十字架にあり、その結果として与えられたのは「永遠の命」です。死は永遠への通過点でしかありません。殉教者はこれをよく知っていたのでしょう。天の故郷、新しい天と地は今のイスラエルあたりに下ってきます。私たちの教会で、毎年イスラエルへ行くのも、永遠なる存在だということを確認するためでもあります。

TLEA FRH Church [The Light of Eternal Agape]



FRH

(天に登録されている長子たちの教会)

Church of the **F**irstborn who are **R**egistered in **H**eaven

主任牧師：イエス・キリスト
ノア勝裕 & 和子

Siloam

(シロアム：遣わされた者 ヨハネ9：7)

2019年9月15日 No.1068

<マタイ13：23>

ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、

その人はほんとうに実を結び、

あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

♪ God is working for my good , now , for my good ,
for my good , God is working for my good , Yes , You really are! ♪

<http://astone-blog.jp/tleafRH/>